



総合体育大会・体操競技

(3月10～11日 体操トレーニングセンター)

主な内容

- 小池市長 市政報告
平成19年度施政方針 …… 218
- グループ登場「南イーグルス」 …… 19
- 加茂の風土記 …… 20

市政報告



加茂市長
小池清彦

平成十九年度の施政方針について

三月八日、市議会で御説明いたしました施政方針の全文を御報告申し上げます。

市議会において、御審議いただきました平成十九年度の予算案の重要事項は、この施政方針で御説明してございますが、詳しい内容につきましては、別冊の「平成十九年度当初予算（案）概要」をご覧くださいと思います。

平成十九年度の施政方針（全文）

平成十九年度の施政方針について、御説明申し上げます。

（これまでの回顧）

平成七年五月、「加茂市に大きな夢と新しい風を」、「民

主的市政と福祉と繁栄を」の願いを込めて、十二項目の公約を掲げて市長に就任させていただきまして以来十二年が過ぎました。

この間、市民の皆様方の温かい御指導と御支援の下、市議会議員の皆様方の力強い御指導と御支援を賜りながら相共に手を携えて、市政を推進してまいりました。ここに、改めてまして市民の皆様お一人おひとりと市議会議員の皆様お一人おひとりに対しまして、厚い感謝の思いを込めて、心から御礼申し上げます。また、職員各位の御協力と御尽力に対しまして、心から感謝の意を表するものであります。

今日までの十二年間、私は、ひたすら市民の皆様お一人おひとりのおっしゃることをよくお聞きして、その御指導に従い、市民の皆様お一人おひとりを大切に、最高にお幸せにすることを根本として、市政を推進してまいりました。私がかれまでに推進させていただきました市政は、ほとんどすべて市民の皆様からいただいたアイデアに基づくものでございます。市民の皆様からいただきましたアイデアは、いづれも現実の生活の中から生まれた、この上なく素晴らしいものであり、民主主義の偉大さに感動する日々でございました。こうしたお陰により、加茂市は日本のトップクラスの福祉と児童福祉のまち、健康施策のまちとなり、日本で最も商工業

と農業が守られているまちとなり、日本で最も自然環境が保護されているまちとなりました。

また、このように、市民の皆様方、市議会議員の皆様方、そして市役所の諸官とともに市政を推進してまいりました結果、加茂市は合併で消滅することなく、存続することができました。そして、猿毛山も消滅を免れ存続することができました。みんな加茂市と猿毛山を消滅から守ることができました。ことは、私たちが先祖に対しても、子孫に対しても、まことに申し訳の立つ、加茂市民みんなの歴史的偉業であり、誇らしく思います。

待望の加茂大橋も、順調に建設が進み、県御当局は、昨年度予算に四年の継続費を計上され、平成二十一年度末までに橋梁が完成することになりました。昨年七月初めには、加茂大橋関連の県道白根黒崎線から先の道路が開通いたしました。

温水プールもオープンし、優れたコーチをお招きしてスイミングスクールも開催されております。

冬鳥越スキー場も加茂市営となり、日の出荘ロッジ・ウェーデルンやTバーリフト三基も完成し、芝生や遊歩道も整備され、冬鳥越スキーガーデンとして一年中お楽しみいただけます。洋式庭園となりました。新潟県最古の電車モハ1の復元もなされ、日本一の花時計も造られ、近隣最大規模の二千七百本のバラ園もオープンいたしました。

温泉も湧出し、温泉施設「加茂美人の湯」は、市民の皆様をはじめ、大勢の皆様が心行くまで楽しんでおられます。

また、昨年には、日本有数の体操トレーニンングセンターが完成し、九月には、日本男子体操代表選手十人が東京以外で初めて強化合宿を行ったところでありました。

昨年十月には市営サッカー場が完成いたしました。

また、画期的なこととして、国が四三％負担する「まちづくり交付金事業」を利用して昨年旧まるよし五番町のあとに、公設民営の食料品スーパーと風呂付きの中央コミュニティセンターを開設いたしました。

同時に同じ「まちづくり交付金事業」として根古屋中央線の道路を整備中であり、平成二十年度末までに本量寺大門通りに達することになっております。

二つの特別養護老人ホームも備わり、六つのコミュニティセンターとかも川荘、ゆきつばき荘、西加茂集会施設も完備いたしました。

多くの体育施設、文化施設も完備いたしました。

加茂山公園、粟ヶ岳県民休養地、下条川ダム公園、若宮公園、二万年前旧石器公園をはじめ、多くの公園も整備されてまいりました。

平成十八年十二月二十一日から三条広域水道矢立配水池の完成により、加茂市民の皆様全員が粟ヶ岳の水が飲めるようになりました。

（良好な市の財政状況の下、極端な地方切り捨ての暗黒時代を悠々と乗り切る予算
福祉、産業支援、諸団体に対する補助金等の予算は、一切削減せず、市政の高い水準を堅持する）

さて、ここまでまいった加茂市でございますが、小泉内閣が出現してからは、県も各市町村も、地方交付税のうち、自由に使える分を大幅に削減され、貯金を食わなければ、予算編成ができない状況に追い込まれたのでございました。

その結果、貯金がなくなつた市町村から倒産して、財政再建団体になっていくというひどい事態となっております。臨時財政対策債も含めて地方交付税の削減は、安倍内閣になってからも改善されず、平成十九年度もさらに厳しく行われることになっております。

市町村合併を行った市町村は、交付税をこのように削減された水準から、さらにその何倍も削減されるのですから、まさに「泣き面にハチ」の状況であります。

これは、もはや政治ではありません。地方と地方自治体を破壊させ、地方の民主主義と地方分権を破壊する行為であります。

加茂市が自由にできる金は、平成十八年度までの小泉内閣

の五年間に毎年九億二千万円も減らされることになりましたが、十九年度には、さらに一億一千万円増えて、毎年十億三千万円も減らされることになりました。この十億三千万円は、市職員の半分に近い百四十七人分の人件費に相当する法外な金額であります。

こうした中で加茂市は、やむを得ず、極めて好ましくない人員削減と大幅な経費削減を行いながら、福祉、産業支援、諸団体等に対する補助金等、市民の皆様に関係する予算は一切削減せず、市政の高い水準を堅持することができました。十九年度予算におきましても、この方針は、堅持してまいります。

さて、平成十九年度当初における貯金的基金等の総額は、九億六千万円ほどになるかと推定されますが、十九年度当初予算案では、必死に経費削減を行つてなお、予算上は、貯金から約五億一千万円が食われることになっております。あとは、十九年度の経費執行において、現実を見ながら懸命に節約を行い、貯金が目減りするのを最小限にとどめたいと思っております。例年のように努力して、何とかこの額を半分くらいに圧縮できればよいかと願っております。

安倍内閣は、地方に移譲した税源を一〇〇%基準財政収入額に計上させることによって、それと同額の交付税を削減し、さらに基準財政需要額を大幅に減らすという暴挙を行いました。従つて安倍内閣は、小泉内閣よりもさらに地方を苦し

める内閣となりました。従って、加茂市は、平成十八年度から始まったいわゆる団塊の世代の大量退職の時代において、思い切った人員削減により対応していくこととなります。

（平成十九年度予算）

平成十九年度予算は、一言で言えば、「良好な市の財政状況の下、極端な地方切り捨ての暗黒時代を悠々と乗り切る予算」であります。

平成十九年度当初の一般会計予算総額は、百三十四億三千万円で、対前年〇・六%の増額でございます（十八年度は、百三十三億五千六百万円）。しかし、借換債を除いた予算額は、百三十二億九千万円で対前年〇・五%の減であります（十八年度は、借換債なし）。

また、一般会計と各特別会計の予算額を単純に合計した額は、二百四十九億七千三百万円で、対前年三・九%の増額でございます（十八年度は、二百四十億二千六百万円）。しかし、借換債等の特殊要因を除いた予算額は二百三十五億円で、対前年〇・四%の減であります（十八年度は、二百三十五億八千五百万円）。

平成十九年度当初の一般会計予算総額百三十四億三千三百万円には、加茂市の制度融資の利子補給のための預託金とするため、市が金融機関等から一時借入する二十七億六千七

百万円が含まれておりますので、これを除くと、加茂市の実質的な予算総額は、百六億六千六百万円となります。

歳入予算の構成比は、自主財源が五四・三%、依存財源が四五・七%となっておりませんが、ただいま申しました一時借入する預託金分を除いて考えますと、実際は、自主財源の構成比は四二・五%、依存財源は五七・五%となります。

これが現実の加茂市の実態であり、日本海側の市町村の一般的な姿であります。従って、国が市町村にお金をよこさないということは、日本海側等の比較的貧しい地域を直撃することになるのであります。

しかしながら、加茂市は、自分の金は極力使わず、国と県の金を大量に使わせていただいて、豊かな市政を運営してまいったところでございまして、加茂市の財政状況は、極めて良好であり、健全であります。

公債費比率から国の負担分を除いた加茂市の負担分を示す指標である起債制限比率は一一・九%という理想的な状態であります。一応の注意ラインである一五%に比べ、少し低すぎるといってあります。

特別会計も含んだ起債制限比率ともいうべき実質公債費比率は、一四・六%で、これもまた理想的な状態であります。一応の注意ラインである一八%を大きく下回っております。

市債残高は、その大半が国の負担分であって、加茂市の負担分は、少ないのですが、そうした国の負担分を含めての市

債残高も最高百四十六億円あったものが、十九年度末には、百十九億円に減ります。しかも、この百十九億円のうち加茂市が負担する分は、四十八億円に過ぎません。残りの七十一億円は、すべて国が負担してくれる分であります。

加茂市の借金即ち市債残高のうち、加茂市が負担する分は、平成十年度末八十一億円、十七年度末五十八億円、十八年度末五十億円、十九年度末四十八億円と、九年度間に四〇%も減りました。

経常収支比率は、一〇三・四%で、これが高いということ、福祉や教育や産業の支援に力を入れているまちであることとを示し、また、国の金を大量に導入しているまちであることとを示しておりますので、これまた理想的な状態であります。このように加茂市の財政状況は、極めて豊かで、良好で健全でございます。夕張市とは正反対の状況であります。

（平成十九年度の加茂市政の重点）

この予算を前提として、平成十九年度の加茂市政の重点について申し上げます。

（平成十九年度の加茂市政推進の基本）

平成十九年度におきましても、市民中心の真の民主的市政をさらに推進し、これまで到達した市政の高い水準をさら

に高め、充実させてまいりたいと存じます。

原則として、毎週木曜日の午後開いております「市民と市長のよもやま話の日」には、私が着任して以来本年一月末までに延べ八百六十一組、延べ千八百九十四人の方々がおいでになり、本当に感謝しております。本年度も市民の皆様方のお越しを心からお待ち申し上げます。

また、地元選出の衆参両院議員、県議会議員並びに市議会議員の皆様方の御支援も仰ぎながら、国・県と太いパイプを結んで、多くの重要政策を実現してまいりたいと存じます。

平成七年十二月、加茂市は「非核平和都市」を宣言いたしました。私は着任以来、日本国憲法の平和主義の旗を高く掲げて前進することを宣言し続けてまいりました。

（平和憲法を守る

憲法改正とは、徴兵制の下で国民が海外で血を流し続けることを意味する）

ところが、最近の小泉内閣と安倍内閣の政策は、まことに憂慮にたえないものがあり、憲法違反のイラク出兵を行い、憲法改正までもが行われようとしております。今や日本の歴史の大きな曲がり角であります。日本が平和で民主的で繁栄した国であり続けるのか、それとも全体主義、ファシズム、

軍国主義の国となって、国民は徴兵制の下で海外で血を流し続け、やがて没落していく国となるのかの別れ道であります。

現在日本は、憲法と両立する形で自衛隊という名の軍隊を持つに至っております。現憲法第九条第二項には、いわゆる「芦田修正」が施されておりますので、日本は自衛のために軍備が持てることになっております。従って軍備を持つために憲法を改正する必要はないのであります。そして一方で、これまでに平和憲法が果たしてきたもう一つの役割が強く認識されるようになっております。即ち、平和憲法がなかったならば、日本は、間違いなく朝鮮戦争にも、ベトナム戦争にも、湾岸戦争にも派兵させられていたであらうということであります。

ここで憲法を改正するということは、国民が徴兵制の下で海外での戦争に狩り出され、血を流し続けることになることを意味するのであります。今や平和憲法は、国の宝であります。平和憲法が存在する限り、国民が海外で血を流すことはなく、日本は永遠に安泰なのであります。人類歴史上落とされた二発の原爆のその二発のすべての被害を受けた日本の平和国家としての立場は、極めて強固なものであり、すべての世界の国が理解していることなのであります。私は、十九年度におきましても、できうる限り講演に赴き、また著作などにより、断固として平和憲法を守り抜く決意であります。

（日本一の福祉、商工業保護、農業保護、自然環境保護、健康施策の堅持）

次に、十九年度におきましては、これまで同様に日本一の福祉のまちを堅持いたします。在宅介護料・看護料無料、また、県下二十市中最低クラスの保育料等すべて堅持いたします。乳幼児医療費につきましては小学校入学前まで通院原則無料、十九年度からは小学六年生までを入院完全無料として、県内トップの水準を堅持いたします。新潟県は、十九年度から小学六年生までを入院原則無料としますが、加茂市は、完全無料、所得制限なしであります。

日本一の水準であるホームヘルパー六十五人は、必要があれば、さらに増員いたします。

施設介護の待機者は、実質ゼロとするよう全力を尽くします。加茂市以外の新設の介護施設からは、極力多くのベッド数をいただくよう努めております。そして、第三平成園の建設をめざして、検討に入ります。

市民バスを十分に運行いたします。

日本一商工業が守られているまちを堅持いたします。二百万円上限無担保・無保証人融資等の融資制度をすべて堅持いたします。各業界を強力に支援し、商店街を守ります。五番町の商店街近代化事業を推進いたします。

企業誘致に努め、誘致した大野精工（株）等を大切にし、支援いたします。

日本一農業が守られているまちを堅持いたします。

日本一自然環境が守られているまちを堅持いたします。

日本一の健康施策のまちを堅持いたします。健診をあらゆる機会に受けられるようにし、新たに前立腺がんの検診を行います。

妊婦健診を無料とする回数を従来の二回から五回に増やします。

（高い教育施策の水準の堅持）

スクールバス二十七台の日本一の体制をはじめ、高い教育施策の水準を堅持いたします。

（加茂大橋、国道四〇三号線バイパス、圃場整備、県道拡幅、須田広域農道延長）

順調に進捗している加茂大橋の橋梁の建設を最大限に進めます。

国道四〇三号線バイパスの建設を着実に進めます。

下条と高柳の圃場整備、県道天神林上条線の若宮町・長福寺間の拡幅、県道出戸村松線の拡幅、須田の広域農道の延長等を推進いたします。

（加茂市内に救命救急センターの開設と加茂病院の移転改築を要望する加茂病院産科の再開等充実に全力を尽くす）

十八年十二月二十七日、私は、「救命救急センターの設置と県立加茂病院の移転改築について」の要望書を泉田知事さんに提出いたしました。また、同時に「県立加茂病院の産科の速やかな再開について」、「県立加茂病院への産科の集約について」、「県立加茂病院の診療科目の充実にについて」の三件の要望書をあわせて知事さんに提出いたしました。産科の速やかな再開と加茂病院の充実に全力を尽くします。

一昨年は、私がイニシアティブをとらせていただき、県央地域の市町村長と医師会長が連名で県知事さん・県議会議長さんに要望いたしました結果、泉田知事さんの大英断の下に県央地域が二次医療圏として存続することができました。各二次医療圏には、二十ベッドくらいの救命救急センターがつけられることになっておりますが、佐渡を除いて県央だけがまだ、救命救急センターの構想も場所も決まっておりません。県央は、下越や魚沼より住民の数が多のに最も遅れているのです。急ぐ必要があります。

私は、救命救急センターの場所は、できれば加茂市内の候補地がよいと思っております。老朽化してきた加茂病院を移転改築し、そこに救命救急センターを開設していただきたい

という要望であります。現在建設中の国道四〇三号線バイパスの沿線で三条市との境に近いところに、加茂市が受け取ることになっている吉津川地区圃場整備の三町歩の土地があります。この土地の周囲は農振地域になりますので他の目的には転用できませんが、病院用地には転用可能であります。従って、加茂市は、受け取ることが確実な三町歩の土地を中核として、四町歩でも五町歩でも十町歩でも必要な面積の土地を確保することが可能であります。もし、県が望まれるのであれば、市議会の御了承を前提として、土地は加茂市が保有することにいたしてもよろしいと私は考えております。この場所は、地理的に見ましても、救命救急センターの建設にまことに適した場所であります。これをつくることになれば、国道四〇三号線バイパスは、一挙に建設されることになります。ここを通って県央のほとんどあらゆる場所から三十分以内はこの候補地へ到達できます。実現に全力を尽くします。

（加茂警察署の廃止を断固阻止する）

平成十六年五月新潟県警察本部は、警察署再編整備実施計画を発表し、「加茂警察署を廃止して、三条警察署に統合することをこれから十五年の間に検討する」といいたしました。その主なる理由は、「犯罪が広域化しているから」、「市町村合併が進んでいるから」、「加茂は犯罪が少ないから」ということだそうであります。これらはいずれも全く納得し

難いものであります。加茂市の周辺で犯罪がどの程度広域化しているのかはわかりませんが、全国の検挙率平均が二〇数%であるのに対して、加茂警察署は四〇数%の高い検挙率をあげておられるのであります。新潟県警本部があげる加茂警察署を廃止する理由は、警察署の存在が持つ大きな抑止力と、警察署が近くに存在することによる即応性を完全に無視しているのであります。

それにしても、加茂がもし、三条に合併されていたら、加茂警察署もなくなり、加茂病院もなくなるであろうことを考えますと、背筋の凍る思いがいたします。栃尾市は長岡市に合併され、十八年四月に警察署もなくなってしまいました。市民の皆様！市議会の皆様！みんなで立ち上がり、断固として加茂警察署を守り抜きましょう。

（かさ上げされた信濃川堤防上に 対面通行可能な市道を整備する。 信濃川河川敷に桃の花の公園を 整備する）

さて、平成十六年の大水害を契機として、国は信濃川堤防のかさ上げを急ピッチで進めております。二十年度末までに下流から刈谷田川までかさ上げするという猛烈なスピードであります。そこで、私は、千年に一度のこの好機に川西・山島と須田の両側において、かさ上げされた堤防の上に対面

通行可能な市道を整備させていただけるよう、国御当局にお願いし、信濃川下流河川事務所長さんは、これを了承されました。また、須田側の山内組の社屋の前の河川敷約五町歩の民有地を国が買収する場所に加茂市が公園をつくることも了承されました。この場所は春に桃の花や梨の花が咲き乱れる中を大河信濃川が流れ、はるかに守門、粟、白山の三山を望み、顧みれば弥彦山が望まれる日本有数の美しい場所です。ので、実ができない花専門の桃の花の公園がよいのではないかと考えております。信濃川下流河川事務所の上谷昌史所長さんに心から感謝申し上げます。

（大正川川口の排水機場建設中）

大正川の加茂川への川口に排水機場を造ることにつきましては、平成十六年度に国土交通省と県にお願いして、計画の中に入れていただきました。国と県の対応は、極めて早く、現在建設中でございます。平成二十年度に完成することになっております。

（加茂川と下条川の堤防のかさ上げを行うことが決まった。早期実現に全力をあげる）

さて、五十嵐川と刈谷田川の改修が終了いたしますと、今後は、大水害においても、両川は決壊せず、大量の水が信濃

川へ流れ込むこととなります。そこで国は、ただいま申しましたとおり、平成二十年度末までに信濃川の両岸の堤防を下流から刈谷田川までかさ上げすることになりました。そうなりますと、加茂川と下条川の堤防もかさ上げしませんと、満々と信濃川を流れてきた水は、加茂川と下条川を逆流して、低い堤防を越えて加茂市内に津波のごとく流れ込むこととなります。そこで平成十七年、加茂川と下条川の堤防のかさ上げを信濃川と同時に進むよう県と国にお願いいたしました。私が県の河川協会の会長であることは好都合でございました。県は、早速両河川の測量を終わりました。そしてこのたび県は、加茂川は下流からJRの鉄橋まで、下条川は下流からJRの鉄橋より上流の新川一号橋まで土手をかさ上げすることを計画の中に入れられました。しかし、まだ計画の中に入っただけです。その早期実現に全力をあげたいと思います。

（洪水ハザードマップの作成。防災同報無線の検討に着手）

次に十八年度末には県が加茂市の洪水浸水想定区域図を作成する予定ですので、これができましたら、それをもとに、加茂市が洪水ハザードマップを作成することになります。また十九年度には、加茂市の全戸を対象とする防災同報無線の検討に入りたいと思います。

（インターネットの光ファイバーサービス）

十八年度にインターネットの光ファイバーサービスが西加茂と須田で実現しました。NTT東日本の数藤崇新潟支店長さんに心から感謝申し上げます。できるだけ早く加茂市の全域がカバーされますよう、NTT東日本の新潟支店長さんと連携しながら全力を尽くします。

（消費生活相談窓口の設置）

サラ金等に対する対策として、消費生活相談窓口を設置いたします。

（携帯電話の範囲拡大）

七谷の大谷や元狭口、長福寺等に携帯電話が通じるようになりしました。十九年度下期には、西山が通話可能となる見通しです。NTTドコモの黒澤友博新潟支店長さんに心から感謝申し上げます。NTTドコモの新潟支店長さんと連携しながら、範囲拡大に努めてまいります。

（テレビの共同受信施設のデジタル化対応）

テレビの共同受信施設のデジタル化対応の調査は終わりました。十九年度から工事を開始いたします。

（旅券発給業務）

十八年度から始まった旅券発給業務をしっかりと行ってまいります。

（小中学校耐震化優先度調査）

小中学校の耐震化優先度調査を行います。

（障害者自立支援法）

障害者自立支援法の施行に伴う事業を充実させてまいります。

（後期高齢者医療広域連合）

後期高齢者医療広域連合が的確に運営されるよう全力を尽くします。

（雪椿の舎の通所バス）

知的障害者通所施設「雪椿の舎（いえ）」の通所バスをしっかりと運行してまいります。

（タンスの販路開拓。海外進出をめざす）

タンスを中心に木工業の国内の販路を開拓するとともに、タンスの海外進出をめざして国外の販路開拓に力を尽くしたいと思います。

（西山に引き続き、上大谷と中大谷に上水道建設）

次に、西山の上水道が完成いたしました。十九年度に上大谷と中大谷の上水道を完成いたします。これで加茂市に上水道の無給水地域はなくなります。

（稲荷面横線）

稲荷面横線の道路拡幅に全力を尽くします。

（不妊治療）

お金のかかる不妊治療を支援してまいります。

（加茂美人の湯）

「加茂美人の湯」を豊かに運営いたします。

（交通安全施設）

交通安全施設の整備を大幅に進めます。

（消雪パイプ）

昨年引き続き、消雪パイプの壊れた井戸の掘り直し事業を行います。

（下水道の整備 県下二十市中最低の水道料金）

下水道整備を推進し、県下二十市中最低の水道料金を堅持いたします。

（国・県の資金を大量に導入）

国・県の資金を大量に導入して、豊かな市政を運営いたします。

（平成十九年度予算編成方針）

次にあらためまして、平成十九年度の予算編成方針は、次のとおりであります。

- 1 建設中の国道四〇三号線バイパス沿いの下条地内に加茂病院を移転改築し、そこに救命救急センターを開設することをめざす。産科の再開等加茂病院の充実を図る。
- 2 加茂警察署の廃止を阻止し、守り抜く。
- 3 スクールバス二十七台の日本一の体制をはじめ、高い教育施策の水準を堅持する。
- 4 加茂大橋の橋梁は二十一年度に完成する。関係の道路は半分開通したが、全通をめざす。
- 5 かさ上げされた信濃川両岸の堤防の上に対面通行の市道

- を整備し、河川敷に桃の花の公園をつくる。
- 6 大豪雨に備え、加茂川・下条川堤防のかさ上げを行うことが決まったので、その早期実施に全力をあげる。大正川の川口の排水機場建設を行う。
- 7 第三平成園の建設の検討を行う。
- 8 小学校六年生までの医療費を入院完全無料、入学前の乳幼児を通院原則無料とする県内トップの水準を堅持する。
- 9 洪水ハザードマップを作成し、防災同報無線開設の検討を行う。
- 10 インターネットの光ファイバーサービスが西加茂と須田で実現した。さらにその範囲を拡大する。
- 11 (旧)まるよし五番町店の場所に開設した食料品スーパーと風呂付き中央コミュニティセンターを円滑に運営する。
- 12 すべての加茂市民が粟ヶ岳の水が飲めるようになった水道を円滑に運営する。
- 13 政府による一段と法外な地方交付税の削減により、県も市町村も、まともな予算編成ができず、貯金を大量に食いつぶす中で、加茂市はやむをえず極めて好ましくない人員削減と大幅な経費削減を行いつつ、しかし、福祉、産業支援、諸団体等に対する補助金等、市民の皆様には直接関係する予算は、一切削減しない。
- 14 日本一の福祉と児童福祉のまちを堅持する。
- 15 日本一商工業が守られているまちを堅持する。
- 16 日本一農業が守られているまちを堅持する。
- 17 日本一自然環境が守られているまちを堅持する。
- 18 日本一の健康施策のまちを堅持する。健診をあらゆる機会に受けられるようにし、新たに前立腺がん検診を行う。
- 19 ホームヘルパー六十五人と在宅介護料・看護料無料を堅持する。
- 20 県下二十市中最低クラスの保育料を堅持する。
- 21 県下二十市中最低クラスの介護保険料を堅持する。
- 22 不妊治療を支援する。妊婦健康診査を無料とする回数を従来の二回から五回に増やす。
- 23 サラ金等に対する対策として、消費生活相談窓口を設置する。
- 24 根古屋中央線の拡幅事業を一気に進め、平成二十年度には本量寺大門通りに到達する(まちづくり交付金事業)。
- 25 須田の広域農道の工事を進める。
- 26 七谷の大谷や元狭口、長福寺等に携帯電話が通ずるようになった。さらに西山等へ通話可能範囲を広げていく。
- 27 テレビ共同受信施設のデジタル化対応工事を開始する。
- 28 二〇〇九年の新潟国体をめざし、建設した日本有数の体操トレーニングセンターを円滑に運営する。
- 29 建設した市営サッカー場をさらに充実し、円滑に運営

- する。
- 30 「加茂美人の湯」を豊かに運営する。
- 31 タンスを中心に木工業の国内販路開拓を推進するとともに、海外販路開拓をめざす。
- 32 加茂市の奨学資金を十分に提供する。
- 33 市民バスの運行を十分に行う。
- 34 冬鳥越スキーガーデンのリフト三基を運行し、二千七百本のバラ園と日本一の花時計を充実し、菊花展も行う。
- 35 七谷の大谷に開設した二万年前旧石器公園を円滑に運営する。
- 36 国道四〇三号線バイパスの建設を推進する。
- 37 交通安全施設の整備を大幅に進める。
- 38 温水プールの優れたコーチによるスイミングスクールを発展させる。
- 39 中小企業小口融資（二百万円無担保・無保証人）を堅持し、中小企業経営安定資金融資等を最大限に実施する。
- 40 国の資金繰り円滑化借換保証制度をしっかりと支援する。
- 41 商店街近代化事業は、五番町街区の事業を推進する。
- 42 企業誘致に努め、誘致した大野精工（株）等を大切にし、支援する。
- 43 下条と高柳の圃場整備を推進する。
- 44 消雪パイプの井戸の掘り直し事業を推進する。
- 45 下水道の整備は、財政が許す最大規模で推進する。
- 45 県下二十市中最低の水道料金を堅持する。西山に続き、上・中大谷に一気に上水道を整備する。
- 46 国・県の資金を大量に導入して、豊かな市政を運営する。
- 47 旅券発給業務を円滑に行う。
- 48 障害者自立支援法の施行に伴う事業を充実させる。
- 49 後期高齢者医療広域連合が的確に運営されるよう全力を尽くす。
- 50 施設介護待機者ゼロを極力堅持しつつ、第三平成園の建設の検討を行う。
- 51 デイサービスとショートステイを十分提供する。
- 52 妊産婦の医療費原則無料を堅持する。
- 53 女性が安心して子どもを産み育てることが出来る加茂市をつくるため、さらに前進する。
- 54 第三子以後のお子様誕生祝金十万円を贈呈する。
- 55 好評の六つのコミュニティセンターと、かも川荘、ゆきつばき荘、並びにいわゆる「百円風呂」を快適に運営する。
- 56 須田中央公園内の「憩いと遊びの広場」の施設、上条の「乳幼児あそびの広場」の施設とともに快適に運営する。
- 57 知的障害者通所施設「雪椿の舎（いえ）」の通所バスを円滑に運営する。

- 58 知的障害者援護施設の建設を常に念頭に置く。
- 59 私立保育園をしっかりと支援する。
- 60 児童館をしっかりと運営する。
- 61 チャイルドシート購入二割補助を継続する。
- 62 公立保育園の園児バスを円滑に運営する。
- 63 六十五歳以上の方々の無料インフルエンザ予防接種を継続する。
- 64 国民健康保険加入者の人間ドック健診料の約七割を補助する(年齢も「三十歳以上」に拡大している)。
- 65 小中学校の耐震化優先度調査を行う。
- 66 学校インターネットのシステムの活用を進め、光ファイバーの導入等さらなる充実を図る。
- 67 小中学校の給食のお米をすべて加茂産のコシヒカリとする制度を継続する。
- 68 スクールバスの運行の日本一の体制を堅持し、障害のあるお子様のためのスクールバスの運行にも万全を期する。
- 69 加茂西小学校の建て替えを常に念頭に置く。
- 70 育成会、スポーツ少年団をしっかりと支援する。
- 71 ボーイスカウトおよびガールスカウトをしっかりと支援する。
- 72 文化および体育の充実を期する。
- 73 「加茂川ブルース」(美川憲一)が全国版になったので、さらに全国に広める。
- 74 新たな加茂市史の編さん作業を進める。今年度は、資料編(民俗)を刊行する。
- 75 加茂市指定文化財を保護する。
- 76 労働界と定期協議を行いながら、全力をあげて支援する。
- 77 消防の充実に努め、消防団員の皆様を高く処遇する。
- 78 二台の高規格救急車を有効に運行する。
- 79 消防の災害救命ボート二艘を運行する。
- 80 小京都加茂市の自然の行き過ぎた破壊を防止する。
- 81 大改修した加茂市・田上町消防衛生組合のごみ焼却炉をしっかりと運営するとともに、ごみ問題には常に的確に対応する。
- 82 加茂市・田上町消防衛生組合の焼却炉の灰の処理場の近代化を進める。
- 83 加茂川の中に生えている木を切る。
- 84 若宮公園を整備する。
- 85 加茂山公園、粟ヶ岳県民休養地、下条川ダム公園等を豊かに維持運営する。
- 86 下条川ダムの入漁料無料を継続し、加茂市の放流量二トンを維持し、日本有数のヘラブナ釣りの名所として大切にする。
- 87 加茂川漁協に対する支援に力を入れつつ、加茂川での

鮎や鮭等特定の魚以外の入漁料を無料とし、子どもたちのサン網漁も多くの場所で行える態勢を維持する。

88 小京都加茂市全体を憩いの場として整備する。

89 「小京都加茂のハイキングコース」を編さんしつつ、コースを整備する。

90 加茂美人の湯の運営にあわせて、粟ヶ岳登山を支援する。

91 市民農園の開設について検討する。

92 加茂市のパソコン化・インターネット化を推進する。

93 商工業を懸命に支援して、その繁栄を図る。

94 各業界を強力に支援する。

95 商店街を守り抜く。

96 マイホーム支援資金の金利一・八%を極力維持する。

また、加茂市に本店を有する建築業者に発注した場合の金利は、極力一・四%とする（いずれも固定金利）。

97 無傷で存続させることができた株式会社日立ニコトラ
ンスミツシヨ（旧新潟鐵工所加茂工場）と存続させることができた株式会社丸五技研等並びにこれらの下請け・孫請け企業を支援する。

98 失業者の救済に全力を尽くし、やむを得ざる場合は、生活保護をもって、対応する。

99 「桐・松の苗を植えて育てる運動」をさらに推進する。

100 三割を超える減反で未曾有の苦難の中にある加茂市農

業を守るため、引き続き農機具購入費補助等の施策を推進する。補助率は、平成十八年度と同様とする。即ち、二〇%とするが、全く減反しなかった方は一五%とし、減反した率に応じて補助率を決めるものとする。

101 林道今滝冬鳥越線の整備に全力を尽くし、その他の林道の整備も着実に推進する。

102 加茂市の山にバイオテクノロジーによる、松くい虫に強い松を植える。

103 家畜堆肥処理施設の建設については、常に着手の機をうかがう。

104 廣円寺裏の危険箇所の大規模改修工事を引き続き推進する。

105 大谷の県道出戸村松線の拡幅整備を引き続き推進する。

106 天神林上条線（若宮町〜長福寺間）の建設を促進する。

107 八幡猿毛線をさらに上（かみ）へ向かって延長し、二〇〇九年新潟国体に備える（まちづくり交付金事業）。

108 下条地域内の県道天神林上条線は、拡幅できるところを拡幅する。

109 （旧）興国鋼線索跡地横の道路を拡幅する。

110 稲荷面横線の整備を進める。

111 黒水・土倉線のさらなる整備を常に念頭に置く。

112 大正川の国道四〇三号線下拡幅工事が完了し、上流の家屋の浸水の危険は大幅に減ったが、さらに上流の拡幅を県

に要請する。また、前述のとおり、大正川の川口の排水機場の建設を行う。

113 上記のほか、市民の皆様の御要望をすべて実現することを目標として、各般にわたり、積極的に施策を進める。ただし、極端な地方切り捨ての暗黒時代なので、今までよりは、工事等が完了するまでに時間がかかることがある。

以上でございます。

（国を亡ぼし、地方を亡ぼす市町村
合併の毒牙から逃れた加茂市の未
来は、燦然と輝く
合併しない田上町の未来も燦然と
輝く）

さて、私たちは、加茂市を消滅から守ることができました。加茂市は、国を亡ぼし、地方を亡ぼす市町村合併の毒牙から逃れることができました。加茂市の未来は燦然と輝いております。合併しなかった田上町の未来も燦然と輝いております。このことは、遠からず明らかになってくることと思えます。そして十五年後には歴然として明らかになっているはずであります。

（合併しない加茂市は、合併したまちに比べて財政が豊かであり、良好な財政状況の下で、愛情を根本として、高い理想を掲げながら、福祉、教育、産業保護等、万般にわたって市政の高い水準を堅持していく）

合併しない加茂市が合併したまちに比べて、財政が豊かであり、福祉、教育、産業保護等万般にわたって、高い市政の水準を堅持し続けていることから明らかであります。

しかし、その一方で、それでもなお、小泉内閣と安倍内閣によって、交付税だけでも、毎年十億三千万円も自由になる金を削られるに至っていることも、また事実であります。

十八年度の当初予算において貯金が減る額は、約四億八千万円でしたが、予算執行の段階でこれを約二億六千万円に減らすことができました。これに対し、十九年度の当初予算で貯金が減る額は、約五億一千万円になっております。これを何とか予算執行の段階で半分くらいに圧縮ができればと願っております。十九年度当初の加茂市の貯金は、約九億六千万円であります。

一方において、私の提案を受け入れられた総務省の瀧野自治財政局長・現在総務審議官の御尽力で、一定の限度で退職

手当債が認められましたので、十八年度から始まる団塊の世代の退職手当の重荷は軽くなっております。そこでまことに残念なことではありますが、毎年度何人退職しても一人か二人しか採用しなければ、これによる人件費の減とさらに今後の起債償還額の減によつて、この毎年の財政赤字は減つていくこととなります。ただし、安倍内閣が十九年度において、小泉内閣をさらに大幅に上回る交付税の削減を行いましたので、この内閣の今後には注意する必要があります。しかし、現在各市町村は、みな貯金を減らし続けており、これ以上交付税を減らすことは、限界に来ております。従つて、この内閣は、今後さらに交付税を減らし続けることはできないと考へております。

いずれにいたしましても、加茂市は、良好な財政状況の下で、あわてず、騒がず、悠々として、市民の皆様お一人おひとりに対する愛情を根本として、高い理想を掲げながら、叡智の限りを尽くして、賢明に、冷静に、的確に対応してまいりますならば、いつまでも、高い水準の市政を堅持していくことができるかと確信いたしております。

北越の小京都加茂市の未来は、燦然と輝いております。みんなので力強く歩んでまいりますよう。

グループ 登場

みんな仲良し

南イーグルスは、加茂市内の小学校二年生から六年生までを対象とする少年軟式野球チームです。「強いからだと心をきたえ、明るく笑顔で暮らす」という加茂市民憲章を基に野球というスポーツを通じて日々「ここ」と「からだ」を鍛えています。選手たちは自らその一員として練習に参加し、練習試合や大会で「目標達成の充実感」や「失敗してもくじけない心」「責任感」などを体験しますが、それらは彼らの未来や財産になると思います、活動しています。

南イーグルス 少年軟式野球チーム



また、われわれ指導者や保護者の皆さんも指導者交流会や試合の応援交流で出会いがあり、子どもたちの情報や新しい友人・知人を得ているようです。今のような時代だからこそ、同じ話題、目標を持っている保護者の皆さんが交流して、話し合い、考えることは非常に大切なことだと感じさせられます。

小学生の大会は、市内予選・中越大会・県大会・北信越大会・全国大会と続き、毎年日本一のチームが決まります。南イーグルスは過去四回の県大会出場と二回の北信越大会出場の実績があります。

現在の目標は、過去の実績を超えることです。勝つことが最終目的ではありません。勝利を目指し、元気に明るく練習して「ここ」と「からだ」を鍛えることが目的です。

野球は、ボールを「投げる」「打つ」「捕る」だけのスポーツではありません。「仲間を信頼する」「チームプレーを身につける」「強い者には皆の力で団結して立ち向かう」ことを教えてくれる素晴らしいスポーツです。

練習に参加したいと思っている人や、興味がわいてきた人、ぜひ気軽に声をかけてください。連絡先は、小林雄蔵(監督・電話五二一五四三九)です。

総体結果

第四十九回総体は、二月のスキージャンプが暖冬少雪のため実施できませんでしたが、体操競技で全競技が終了しました。次回の総体開会まで四カ月余り。連覇、上位入賞を目指して練習をがんばってください。



体操競技

期日 三月十・十一日

会場 体操トレーニングセンター

※選手の所属のうち「加茂体操クラブ」を(体操ク)で掲載しました。

【個人総合】▼小学男子(タンブリング・円馬・とび箱・鉄棒・柔軟)

①有本隆寛(下条小) ②佐藤脩平(体操ク) ③森山重理(同) ▼小学

女子(とび箱・単バー・平均台・タンブリング・柔軟) ①桑原千晴(石

川小) ②伊丹菜緒(加茂西小) ③高

野栄美里(下条小) ▼中学以上男子

(ゆか・あん馬・つり輪・跳馬・平行棒・鉄棒・柔軟) ①船久保洋平(加茂高) ②近藤拓也(同) ③川口正太郎(付属中) ▼中学以上女子(跳馬・



段違い平行棒・平均台・ゆか・柔軟

①近藤知秋(葵中) ②番場桃子(若宮中) ③佐藤祐羽(体操ク)

【特別種目・かべ倒立】▼男子①高野耕平16分1秒(加茂高) ②高野雄貴(葵中) ③有本隆寛▼女子①横山天音4分5秒(石川小) ②坂井彩音(同) ③番場ひかる(加茂南小)

【特別種目・倒立歩行】▼男子①高野耕平70m40cm ②近藤拓也 ③船久保洋平▼女子①番場桃子46m30cm ②佐藤祐羽 ③近藤知秋

会長賞(最優秀選手) 有本隆寛(下条小)・桑原千晴(石川小)

三栗賞(最優秀新人) 渡辺由貴那(加茂小)

加茂市の縄文時代遺跡

子供の頃、加茂川上流域の小高い畑地から、矢じりの形をしたきれいな石のかげらを拾った経験を持つ方は意外に多いのではないだろうか。それは数千年前の縄文人が製作した狩猟道具である。「縄文」は考古学に疎遠な方々にも一番耳慣れた時代名称であろう。

縄文時代の開始は今から約一万三千年前頃とされ、約一万年間続く。主に土器の形や紋様を指標に、草創期(約一万三千年～一万年前)、早期(約一万年～六千年前)、前期(約六千年～五千年前)、中期(約五千年～四千年前)、後期(約四千年～三千年前)、晩期(約三千年～二千三百年前)の六時期に区分されている。

加茂の風土記

近年の調査成果で著名な遺跡としては、縄文観を交えたとされる青森県三内丸山遺跡、県内では旧加治川村の水田地帯で調査された青田遺跡が挙げられる。

これまで加茂市内の四十六カ所で縄文時代の遺跡が確認されているが、草創期、早期の遺跡は極めて少なく、前期も三遺跡ほどである。中期になると数が増え、後期まで多いが晩期になると減少する傾向にある。ほとんどが河川に面した小高い平坦な場所にあり、平野部には少ない。

代表的な遺跡は加茂川最上流域に所在する水源池遺跡である。昭和三十年にダム建設工事により、発見され、八百枝氏らの尽力で遺物が採集された。土器のほかに民俗資料館に移築復元された石を方形に組み合わせた炉跡は市内唯一の竪穴住居跡の存在を示す貴重な



水源池遺跡から出土した炉跡
(故八尾枝茂氏撮影)

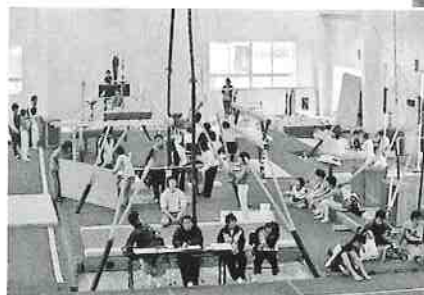
ものである。土器も有名な火焰土器の仲間である王冠型土器を初め、北陸及び東北地方の特徴を持つ土器が出土し、信濃川流域の文化様相と調和的である。恐らく加茂川流域における縄文中期の拠点集落であった可能性が高い。

ほかに発掘調査された遺跡としては、縄文後期の祭祀場と見られる七谷忠魂碑遺跡や中期～後期にかけての土器捨て場と見られる陣ヶ峰北遺跡、旧加茂市役所庁舎建設の際に発見された加茂市役所遺跡などがある。また、本格的な調査は行われていないが、多数の石鏃や土器が表採されている岩野原A～D遺跡は加茂川に面した広い台地上に立地する環境から水源池遺跡と同じく、中～後期の中心的な遺跡と考えられる。

狩猟・漁労・採集経済社会とされる縄文文化が加茂川とその支流及び後背の山間地の豊かな資源の恩恵に与りながら約一万年間営まれたのである。各所で見つかる石鏃一点、縄文土器一片が、そこに埋もれた遺跡の存在を私たちに知らせ、「縄文」を体感する入り口となる。

(伊藤秀和)

第49回総体・体操競技
(3月10日～11日)



人口のうごき

3月1日現在
世帯 10,005 (+1)
人口 32,029 (-38)
男 15,482 (-23)
女 16,547 (-15)
()内は前月比
(2月異動分)
出生 15 (男6女9)
死亡 26 (男20女6)
転出 54 転入 27